～中学生のアイディアを生かして～

地域の「宝の原石」を磨く

1. はじめに

H20.09 第 6 回夢アイデア応募作品「住んでいる地域の宝を誇りに」で、海岸「夕陽風景時計」、海岸松林内に遊歩道「てくてく道」の提案を行ったが、その後草刈等実践に移っていた。

海岸松林のボランティア活動面では、福津市では古賀市や新宮町に遅れること 5～10 年過ぎたH20.08から、宮司地域や津屋崎地域の郷づくり（※）とボランティアは松林再生・保全活動を始めていた。市内でも海岸松林を持たない地域（福間南郷づくり）に住む私は、ほぼ1年後に活動を知って、H22.01 から市内津屋崎･宮司海岸松林の草刈ボランティアに越境参加したが、草刈ではなくジャングル状態の灌木・竹藪の鋸伐採・運び出しというきつい労務が待っていた。

（※：福津市では小学校区を単位とする 8 つの地域自治「郷づくり」があって、それぞれ子育て、福祉、安心安全、環境景観、広報の 5 部会からなり、松林再生・保全活動は環境が当たる）

新宮町や古賀市の活動結果と未整備の福津市の画像を、第 6 回作品のパワポにて福津市長等に示したが、福間地域の松林対策要望も高まっていた。同時に、宮司･津屋崎地域の努力の結果、松林に並行する国道 495 号から松林が徐々に蘇る姿を市民も気付き、行政も動いた。即ち、H22.04 から松くい虫対策の「松林雑木林等除伐・下刈業務」が 3 か年計画で集中的に始まった。その結果福間地域でも H23.04 に郷づくりとボランティアで古賀市境から、再生･保全活動が開始。私は、津屋崎、宮司の活動を続けながら、専門知識は少ないものの、その実践経験を生かし福間の活動定着の手伝をし、植樹祭もついに実現した。これで、福津市の海岸松林を持つ 4 郷づくりの再生・保全活動が定着し、「4郷松林交流会」を立ち上げ、連携と協力体制ができ、森林管理署へも働きかけ、市行政と地域が共働で取り組むようになり、TV 取材があるなど松くい虫の対策効果が表れ、安心感の遊歩道が古賀市から福津市へと続き、散歩者が増えて喜びの声を聞くなど成果も見えてきた。（写真 1）

（写真 1）安心感も出てきた遊歩道

しかしながら、市松林全体の整備状態の現状と、高齢者の使命感頼りのボランティアの作業者とリーダーが固定化している現実を見ると、数年後の活動に危機感を持たざるを得ない。

2. 広報活動から生まれる学び

福津市内「4 郷松林交流会」は、4 つの郷づくりではそれぞれ環境も違い、作業経験も異なることから、各郷づくりとの情報交換や研修（講演会）を目的に H24.02 立ち上げたものだが、その後先進地帯の新宮町と古賀市の保護団体から学ぶべく「2 市 1 町松林交流会（仮称）」を福津市で H24.11 開催したところ引続き福津市で、充実継続されることとなった。

市内 4 郷松林交流会では、ボランティア不足が共通課題であることから、福津市に要請し、広報誌裏表紙に活動掲載の後、H24.08 の広報誌には松林特集号が組まれ、素人向けに松林の記事と私や 4 郷づくり活動リーダーのインタビューを 11 頁掲載してくれた。その特集はオールカラーで質量面でも市内外の反響は大きかったが、ボランティアの効果は少なし。次には、作業の場所日時を示すため、市民全戸配布の「Fukutsu calendar」の日々枠に掲載実現。

市内の小学生は、毎年 2 月の植樹祭に参加していたが中学生の参加は無かった。そこで、地元中学校に郷づくり自治会長と参加要請に行ったところ、学校地域活動のテーマになると応じてくれて早速部活単位で定例作業に参加。若い機敏な運搬等で大助かりであった。しかも、作業後教師から「松林の役目」を生徒に説明してくれと嬉しい注文まで。また、それ以前の植樹祭時には小学生の母親から「子供の背丈に伸びるには何年かかるか」との問いもあった。

各方面に海岸松林の話をし、活動参加を呼びかけ、イベントを実施する中で、松または松林について素朴な疑問が湧いてくるものだ。一方私たちボランティアの知識もバラバラで、植樹祭で誤ったアドバイスを子供にしている例も見られた。そこで、行政発行の既存の「植樹手順書」を参考に、植樹で注意すべきことを子供に分かり易く絵と言葉で示した「植樹手順図」を作成し、植樹祭では掲示して作業前に説明。なお、この作成には、市内外松林専門家や行政にもチェックしてもらったが、国行政他からも解り易いと感心された。素人作成の成果だろう。

松林への素朴な小さな疑問に答えなければと、webで調べたり、専門家や、行政に問い合わせても、環境の違いと個体差が大きく影響するとして回答は一様ではないから悩ましい。

3. 新たな課題（内 3 つ）と解決の糸口 活動の成果には、高齢者等の使命感のほかに敬服すべき人達がいる。それは、定例作業日以外の日に何日も自主的に作業をしてくれる何人もの夢を持つ特定高齢者がいてくれるからだ。だからなお、4 郷づくり共通の新たな課題（とりあえず 3 つ）を解決しなくてはならない。

① 雑草の夏季の繁茂に追いつかない。手つかず箇所も多い。

「虹の松原」の国道 202 号海側のような「白砂青松」になれば、雑草はあまり生えず、落ちた松葉をかき集める作業が主体となる。ただし、白砂青松にするには、砂地が表面に出るまで、砂地上に過去に降り積もって「腐植土」となった土（厚さ 5〜10 ㎝）を取り除く必要がある。ジャングル退治同様に労力を要する作業であり、人海戦術ではきついし時間も要する。福間地域では小範囲の「白砂青松のモデル」をつくり、毎月手を入れ目標として、徐々に拡大することにしている。

松林内遊歩道は、市施策の作業路を含めると一端は全市を貫いたが、手が回らない場所では、夏場の遊歩道の左右は背の高い雑草がはびこり、見通しが利かなくなり、また部分的には作業路内に雑草が茂り歩くのに不安な状態となる。

また、植樹計画区域は地拵えをするが、今の陣容では完全に砂地を出すには至らないため、夏場には雑草が生える。若い松苗は年間成長 20〜30 ㎝で、雑草が追抜いて高く伸び、日光を栄養とする松苗は雑草の日陰になると弱り、松苗は隠れて周りの草刈も困難に。

今後の植樹は、松枯れ等で松が無くなった空地がまだ残っており、毎年必要になるがそのアフターケアが夏季は追い付かない。地域でできることは地域での郷づくりの精神で努

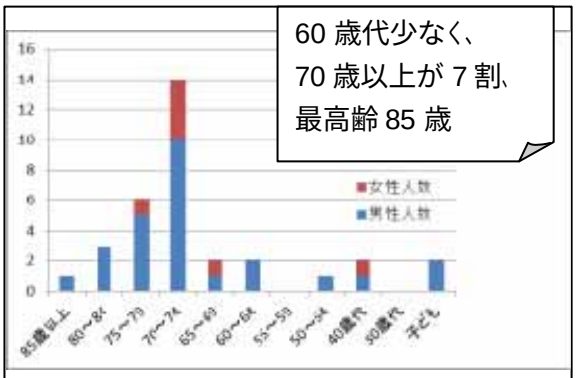
力しながら、夏季だけの支援を市行政にも要請していたところ、市の職員が親子 60 名で参加してくれた。さらに仕組みも検討してもらうこととなった。

② 70 歳以上が 7 割最高齢 85 歳

ボランティア陣容の危機感から、見通しをつけるため具体的に年齢構成を調べると右表（H25.06.27 に花見松林）の通りだが、全地域同じような傾向である。

ただ、女性参加が見られないところがある。

65 歳前後の団塊の世代は多いはずなのに、活動情報が伝わっていないのか。退職後も引続き働いているのか。現役世代は、週末は休養か家庭サービスで精一杯なのだろうか。



（表）新課題ボランティア年齢構成

③ 毎月ほぼ同じ顔ぶれで新人が少ない

各郷づくりで差があるが毎回 15～40 名参加で、同じ顔で新人が少ない。

これらは、年代による松林内遊び経験の有無や認識差が市民にあるからだろうか。ならば、松林に愛着を持てる仕組みとして、親子で気軽に足を運んでもらうため何が必要か。

4. 松林内サイン（掲示板等）設置事業の企画 かなり以前（松林活動が始まる前）、福間の松林内で雑草に覆われた道で迷って不安になった経験がある。活動を始めてからは作業場所を伝えるため道標、活動情報提供･作業説明用掲示板の必要性を感じていた。しかし、経費面から当面諦め、やむなく印刷物をラミネートして松の幹に縛り付けていたが、雨水がしみて見えなくなるなど無残な姿となった。

そのような時に、福間広報部会長から新しい補助金の情報が得られ、説明会などを通して複数団体（協議体）の申請が条件であるが、掲示板（看板）経費に使えることが分かった。

ただし、これを実行するには現体制だけでは定例清掃作業や植樹活動にも影響が出るため、清掃活動に実績がある中学生と共同で掲示板建植等の労働作業を当初考えた。

しかしながら、市民やマスコミが注目し、松林に来てもらうには、興味を引く掲示板でなければならない。松林の役目や歴史、ボランティア作業日（抵抗感を無くす表現）を標示したり、道案内を立てたり、鳥がくるよう巣箱も作り、松林の中で休憩・観察・鑑賞できる腰掛設置が考えられたが、掲示板等の位置、内容や表現を中学生に任せてはどうか。

中学校のコミュニティスクール活動をよく知る広報部会長によれば、子どもと大人が真剣に話し合い、子どものアイディアを生かしながら、子どもたちが自主的に行動する姿があり、生徒会が自主的に動き、次の代に取り組みのバトンがひきつがれる様子も見られたという。

そこで、松林についても中学生のアイディアを期待し、中学校、市、郷づくりの協議体による「サイン設置事業」として掲示板等の製作費等に補助金を充てる企画を行った。

なお、この企画案は福岡県に申請しプレゼン審査を受けてH25.07 に採択された。

この事業で、松林に憩いの場がつくられ、中学生から親へ、祖父母へ、（マスコミを通して）市民の関心を高め、訪れると松林の魅力に気づき、ふるさとを愛する心、この地域の自然を守ろうという意識が高まり、「よしやってみよう」とやる気スイッチが入るのではないか。

その結果、松林に愛着を持ったボランティアが増え、白砂青松･楽しい遊歩道が繋がり、松林が市民の健康と憩いの場「宝」にもなる。それには、先ず中学生松林勉強会が必要だ。

5. 中学生の松林学習（郷育松林講座教材等） 中学生に掲示板等のアイディアを出してもらうため、授業として松林勉強会を願っていたが、

丁度、福津市の生涯学習の郷育カレッジ 10 周年祭イベントの記念公開講座が考えられていた矢先だったため、広報部会長の提案で、なんと「松林」が取り入れられたのだった。

1） 教材作成

過去に種々投げかけられた素朴な質問や中学生対象に興味を惹きそうなクイズに始まる教材原案をつくり、市内津屋崎、福間東、福間中学校の 3 中学校生徒向けの内容に適すべく、各中学校先生方の意見も加えパワポで完成させた。

講座では中学生は初めて学ぶ松林に対する意見を発表するため、3 中学校それぞれに応じた事前の松林勉強会を行った。福間東中学校は海岸松林から離れ無関係に見えるが、防風保安林（松林）で守られた田畑の野菜が皆の食卓にも上がっていることも教えた。

2） 教材内容（松の特性）

① 松とは「クロマツ」のことであるが、松と松林の特徴を知るため、同じ針葉樹でも「スギ」「ヒノキ」と葉形が違い、「マツ」の針形特性が海岸保安林に適していることを教える。

②松林（各種保安林）の 3 つの資源価値

a.環境資源･･･松林は砂を止め農地を守り、津波被害から人命財産を守る。

b.健康資源･･･松は古来より長寿の象徴とし、歩きやすい松原は散策の場

c.観光資源･･･文化を育む美しい松原は観光産業を振興する大切な資源

その他： 材木資源、燃料資源は過去もので、今後は松林生き物調べなど「学習資源」

② 人工林

福岡地域の海岸松林は 400 年前から江戸時代黒田藩が奨励して植林されたもので、自然に生えたのではないこと。山から松の木を移植し、その後も適宜植樹を続けて維持されてきた人工林であること。

③ 松の弱み

松くい虫（松ザイセンチュウ）に弱く、それを運ぶマツノマダラカミキリ防虫のため毎年薬剤散布が必要であること。

6.中学生学習結果発表

1）松林講座（9/28 福津市中央公民館にて）

中学生 28 名を含む 48 名の聴講生に、講師（私）の松林の実態や問題点、目標をパワポで説明。ファシリテーター（先生）から出された命題「白砂青松に沢山の人をどうまきこむか」に、聴講生は「ブレイン･ライティング」で次々書込み、まとめて中学生男女で発表。

午後は、一般市民が集まる大ホール舞台にて、中学生代表３人、講師と郷づくり４人計7人によるパネルディスカッションで松林の思い発言。「白砂青松」も自然に出ていた。

2) 3中学校別に中学生の思いの発表ポイント

津屋崎中:「松林のユルキャラつくり」その他、

福間東中:松林が地元にないので「アダプトプログラムをつくる」その他、

福間中:「4シーズンイベントを行う」その他（掲示板用語を割愛）

7.松林のこれから（宝原石磨き）

1) サイン設置事業（アイディア･設計・申請許可）

福間中学校は事前勉強会でサイン設置の2松林内を地図片手に歩いた。（写真2）

提供したイメージを参考に、具体的な場所や大きさ、内容検討する熟議を開いたが、自由奔放な内容がポンポンと出てきた。

サイン設置には、森林法、自然公園法、道路法や予算制約がある中、市民を松林に誘う中学生アイディアを如何に取入れ表現するか、嬉しい悩みではある。

保安林や国定公園内に設置するため、この結果を受けて具体的設計図をつくり、市道路維持課、農林事務所や県自然公園課と打合せを重ねて書類申請となるが許可に 1か月を要すると言われている。

植樹祭に影響無きよう、12 月設置が望ましく、申請準備を行う。

掲示板等の本体作成は専門業者に発注するが、日光による劣化もあり、継続性という観点からラミネート加工により、中学生の進級に伴い差替えを行い、環境意識が継続されるようにしたい。（写真3）

（写真2）サイン設置場所調査の勉強会

（写真3）サイン企画イメージ

道しるべや鳥巣箱は工作対象となる。設置については郷づくり大人の力を借りる。

2) 中学生の思い発信による効果

中学生の思いを広く市民に伝えることで、各階層に下記「　」の効果を期待したい。

a.高齢者：「散歩などで健康に良いらしいので行ってみよう」「孫の作ったものを見よう」

b.現役卒業 1～2 年生（無職）:「孫の中学生の思いが分かった」「地域貢献になるなら Fukutsu calendar を見て行ってみよう」「経験を生かしてリーダーもやれるかも」

c.現役卒業後数年生（再就職）:「時間がある時で良ければ行ってみよう」

d.現役：「子や孫の中学生の思いが分かった、親子で活動に年 1～2 回なら参加できる」

3) 市の支援

上記 2）は市広報誌への掲載を目指したいが、回覧や広報誌にも限界（見ない読まない）があり、新聞テレビに取り上げられる活動内容にする必要がある。

4） イベントや交流会

津屋崎千軒の海とまちなみの会のふるさと塾のテーマに、私の第 6 回夢アイデアの宝「夕陽と松林」をセットにした「松林と古賀市の夕陽風景時計」の研修会が計画された。時計を福津市の海岸にとの提案があれば、日没 30 分前からの軌跡を示す新式にしたい。

新宮町から福津市津屋崎までの一帯の松林は全長約 10 ㎞にも達する。この松林は 2 市 1 町（福津市、古賀市、新宮町）にまたがり、国有林もあれば、県や市有林、ゴルフ場（企業）、組合、個人とさまざまだが、交流会が継続することとなり、愛称募集等も諮りたい。

5) ここにもある夢の技術テーマ 松葉等が降り積もってできた「腐植土」回収車が考案されれば、白砂青松の労力が助かり、松林も農耕地も腐植土で助かり一石二鳥だ。一方、毎年松葉が降り材料が供給される枯れた松葉の活用技術も、何時の日かビジネスに乗る夢つくりが残っている。

8.あとがき

5 年前の第 6 回夢アイデアでは「…宝を誇りに」としていたが、既述のように実践に入ると福津市内では「宝は原石状態」が多く、提案とはかけ離れた現実だった。

当初の提案は私個人でもできるが、その実現には多くの人力と時間が不可欠だった。ボランティア以外では、この夢に賛同または同じ思いの人達の力を貰って程度成果も見えてきたが、この夢実現には道のりが長い。一人の力は限られるが、夢を語り賛同者･理解者が加わると新たな発想も生まれてくる。直面した課題解決のため中学生の登場となったので題名を、～中学生のアイディアを生かして～「「宝の原石」を磨く」としたものだ。

サインを通しての中学生の発信から市民が集い、ボランティアが増えて「宝の原石」が磨かれていけば、遊歩道「てくてく道」10 ㎞等「宝」が誇りになろう。